



十勝川治水100年  
トークリレー ⑤

## 教育と産業への貢献期待

十勝川の河口にいる住民として、また河口から海へと続く大自然をなりたいとする生活者として希望と期待があります。

川への希望としては、この複雑な川の形状を子どもたちにわかりやすく伝えてほしいと思います。「なぜこんなに高水敷が広いのか?」。また普段流れている十勝川を見て、「なぜこんなに広い川幅を必要とするのか?」。どちらも大津の安全を守るために重要なことですが、もつと地域の子どもたちにわかりやすく説明できる機会があれば良いと思います。

次に、将来に向けた「産業

大津漁業協同組合 代表理事組合長 中村純也氏



に貢献する治水への期待があります。近年、流木発生が毎年起こり、私たちの基幹産業である秋サケ定置網漁では、流木対策に頭を痛めています。北海道開発局や北海道(建設管理)部で一時集積対応をしていますが、もつと根本的に流出を抑制することができないかと思うところもあります。そして、今回の十勝川水系河川整備計画においては、地域産業への治水の貢献が重要と聞いています。十勝川は、大津はもとより、道東太平洋のサケやシヤマなどの遡河

(そか) 性魚類の再生産にとって重要な河川です。河川だけでなく、沿岸も含め豊かな生産を支えており、漁業協同組合としても、かつての豊かな生物相の復活を望んでいます。また、資源保護の観点からも、河川への油類を含む薬品類の流出など、水質汚濁防止にもしっかり取り組んでいただきたいと思います。

今回の整備計画の見直し、豊かな漁業資源を復活させるためのきっかけになってほしいと思います。

◇ (随時掲載)

## 十勝川治水100年記念事業

## トークリレー



大津漁業協同組合代表理事組合長  
中村 純也 氏



十勝毎日新聞  
令和5年3月14日 3面 掲載